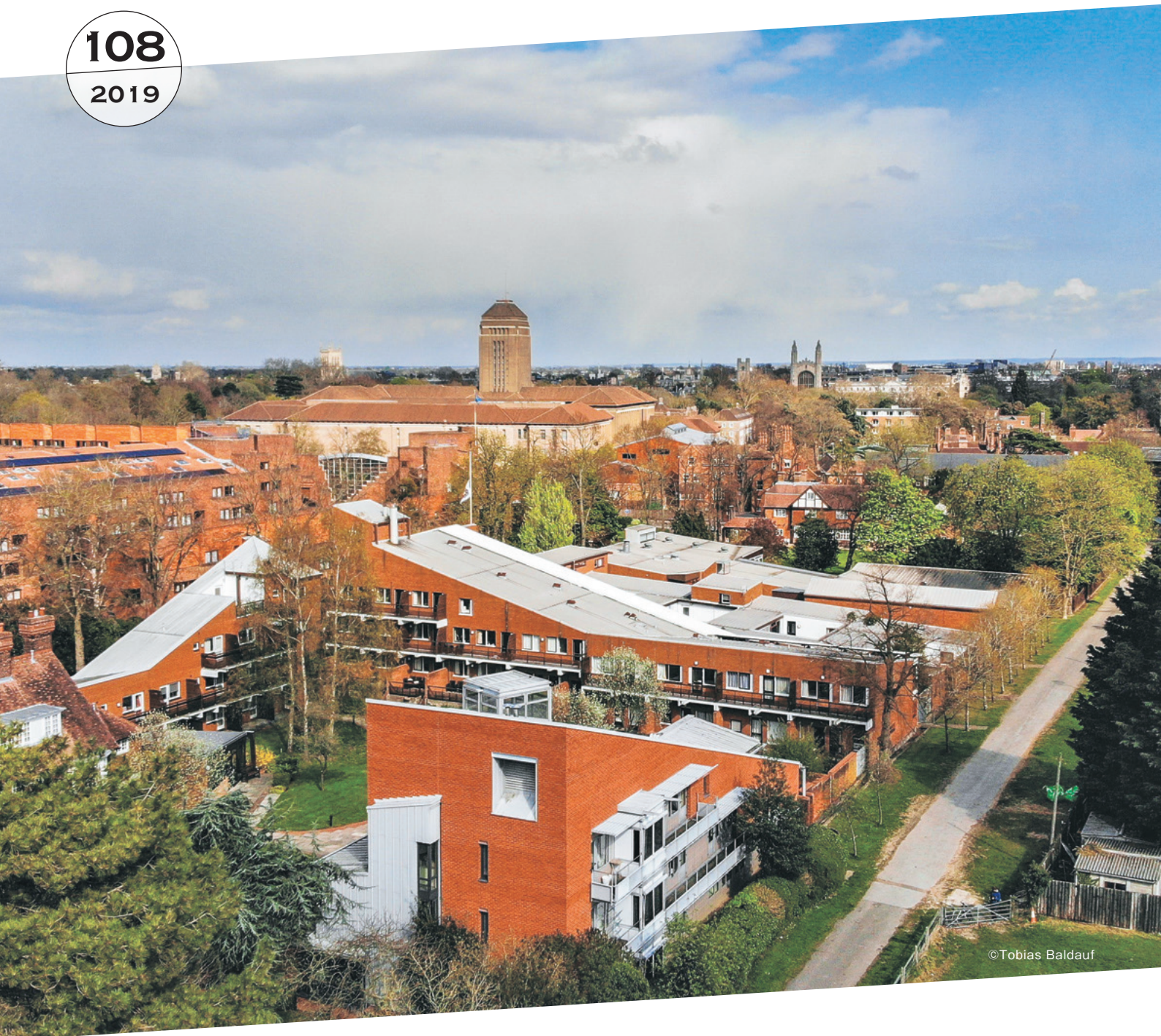


# RCAST

Research Center for Advanced Science and Technology **NEWS**

**108**

**2019**



©Tobias Baldauf

先端研ならではのグローバルな活動を展開

**先端研の国際連携**

研究室によるオリジナル研究室&研究生生活紹介

**LOVE, LAB, LIFE！ 岡本研**

**先端研イチオシ！ローカル情報  
福島県いわき市**

輝け！未来の先端人

**辻田 匡葵 さん**



東京大学 先端科学技術研究センター  
Research Center for Advanced Science and Technology  
The University of Tokyo



# 先端研の国際連携 International collaboration

先端研は、世界トップレベルの研究活動を展開するだけでなく、研究者同士の枠を超えた組織的な連携によって、先端研ならではの広範なつながりをグローバルに拡大しています。今後は、連携先にサテライトオフィスを設置するなど、より深い交流を図る予定です。



2019年8月1日現在

## 連携先機関 (連携協定締結順)

### 1 ストックホルム大学(スウェーデン)

Stockholm University

2002年10月締結

スーパーコンピュータを用いたIT創薬研究分野を加速させるためのさまざまな共同研究を展開。研究員だけでなく、学生の学術交流も活発に行うことを目指す。

### 2 ケンブリッジ大学クレアホール(イギリス)

Clare Hall, University of Cambridge

2006年3月締結

包括的連携協定を結び、合同シンポジウムの開催やVisiting Fellowshipプログラム、Visiting Studentプログラムを実施し、先端研所属の研究者や学生の活発な人的交流が行われている。

### 3 グラスゴー大学(イギリス)

University of Glasgow

2007年10月締結

エネルギー・環境分野を中心とした学術分野における両大学間における研究交流、学生交流を促進している。

### 4 アリゾナ州立大学・アリゾナ再生可能エネルギーイニシアティブ(アメリカ合衆国)

Arizona Initiative for Renewable Energy, Arizona State University

2010年2月締結

化合物半導体材料を用いた高効率多接合型太陽電池の研究開発、中間バンド型による超高効率太陽電池の研究開発など、太陽光エネルギー技術分野における研究・教育関連の取り組みを共同で強化推進している。

### 5 フランス国立科学研究センター(フランス)

Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS)

2012年5月締結

次世代太陽光発電技術を中心とした新エネルギー分野連携研究拠点“LIA NextPV”を先端研内に設置。「総合的新エネルギー分野における協力拠点」への拡大を目指し、学内外の研究室・研究機関との協力活動を展開。

### 6 ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)

The University of New South Wales

2013年8月締結

超高効率太陽電池研究開発事業等の枠組みの中で、国際シンポジウムや研究者交流・共同研究等を中心とした連携活動を推進。

### 7 ソウル大学 AICT(大韓民国)

Advanced Institutes of Convergence Technology (AICT), Seoul National University

2014年11月締結

先端研と同様に研究領域を特定せず多様な分野を擁する研究所。シンポジウムやワークショップ開催の他、研究情報の交換及び人的交流を行い、特にアジア域におけるネットワーク形成の端緒となることを目指し、交流活動を推進。

### 8 カッセル大学(ドイツ)

Universität of Kassel

2015年9月締結

数学・自然科学学部生物学科と協定を結び、神経科学分野、特に昆虫科学及び神経科学分野の活性化を目的とした協力研究と学際性の発展・深化を目指した研究交流を展開。

### 9 アデレード大学フォトンクス・高度センシング研究所(オーストラリア)

Institute for Photonics and Advanced Sensing, The University of Adelaide

2017年9月締結

フォトンクスとレーザーを用いた研究拠点であるアデレード大学フォトンクス・高度センシング研究所と先端研情報デバイス分野との連携により、世界的な研究成果が期待できる。

### 10 クイーンズランド工科大学(オーストラリア)

Queensland University of Technology

2018年2月締結

太陽光からの高効率・低コスト水素製造・大陸間輸送、再生可能エネルギーへの転換シナリオ等について国際共同研究を展開。社会連携研究部門「再生可能燃料のグローバルネットワーク」では共同で実証実験を行っている。

### 11 テルアビブ大学 モシェ・ダヤン中東アフリカ研究センター(イスラエル)

The Moshe Dayan Center for Middle Eastern and African Studies of Tel Aviv University

2018年2月締結

モシェ・ダヤン中東アフリカ研究センターと教員・研究者の相互訪問を展開。中東・アフリカ分析の最新の知見を常時取り入れる態勢を整備し、中東アフリカ地域の外交・安全保障問題やリスク分析への政策提言能力を高めていく。

### 12 科学産業研究局 科学産業研究委員会(インド)

Council of Scientific & Industrial Research, New Delhi (CSIR)

2018年10月締結

光デバイス・エネルギー変換デバイスに関する共同研究を協力して展開する。さらに、CSIRに属する多様な研究機関と先端研の研究分野の間でマッチングを図るワークショップを定期的に開催し、共同研究の拡大を目指す。

### 13 エルサレム・ヘブライ大学(イスラエル)

Hebrew University of Jerusalem

2019年5月締結

自然科学・工学・理学・人文・社会科学等の分野での人的交流、共同研究、シンポジウム・セミナー等の開催を目指す。研究成果の国際共著論文あるいは国際共編著書籍の刊行が期待される。

### 14 オタワ大学 フォトンクス研究センター(カナダ)

The Centre for Research in Photonics, The University of Ottawa

2019年6月締結

積極的な人的交流により、相互が得意とする技術を融合させた新たな研究テーマの提案を目指す。特に、半導体結晶成長からデバイスの設計・作製、高効率太陽電池およびそれを用いたシステムに関する共同研究を展開する。

先端研では、国内外の教育・研究機関等に所属し、深い知見を有する、または業績が顕著な人材を「先端研フェロー」として迎え、先端研の活動に国際的な広がりを持たせています。

## バンディニ ステファニア 氏

Stefania BANDINI, PhD



ミラノ・ピッコカ大学数理自然科学研究科教授

文理融合の幅広い研究を行う国際的研究者。イタリアで高齢化社会における国際化と教育に関するプロジェクトのリーダーを務めるなど、常に学際的研究のトップランナーであり続けている。また、セルオートマトンの研究分野で最も有名な国際会議ACRIの創始者としても有名であり、自身の研究成果をスピノフさせたベンチャーを立ち上げた成果では、2009年にミラノ市からビジネス大賞も授与された。

## チャンピン 氏

Ping CHANG, PhD



Texas A&M大学海洋学科および大気科学科教授

北大西洋の海洋子午面循環の研究を推進し、インパクトのある学術誌に論文発表してきた国際的に著名な気候研究者。最終氷期終焉直後の急激な気候変動や前世紀に観測された中緯度暖流域の顕著な温暖化に関する研究のほか、最近では高解像度の領域大気海洋結合数値モデルを活用し、海洋表層と熱帯低気圧との相互作用や海洋渦が温帯低気圧に与える影響などに関する斬新な研究で影響力のある成果を挙げており、米国気象学会フェローに選ばれている。

## コープ デイビッド 氏

David COPE, PhD



ケンブリッジ大学クレアホール終身メンバー教授

環境及びエネルギーの専門家として過去30年にわたり英国政府に科学技術政策に関するアドバイスをを行った。特にサッチャー首相と中曽根首相により立ち上げられた「日英21世紀委員会」アドバイザーとして活動し、日本の政府や政治家から厚い信頼が寄せられている。2010年には英国Japan Societyより年間市民賞を贈られ、2012年には旭日小綬章を叙勲されている。

## 藤田 敏郎 氏

Toshiro FUJITA, MD, PhD



東京大学名誉教授、信州大学特別特任教授

生活習慣病の成因解明と治療法の基礎研究に挑み、特に最近では食塩による高血圧発症にエビジェネティクスが関与することを世界に先駆けて報告している。食塩感受性高血圧の研究は国の内外で高く評価され、2013年には欧州高血圧学会「ESH HONORARY MEMBERSHIP」、2014年には国際高血圧学会の最高栄誉賞「Franz Volhard Award」を日本人として初めて受賞。2015年には春の紫綬褒章を受章している。

## 伊藤 節 氏

Setsu ITO, Master of Design



デザイナー

欧州、日本を中心に国際的な企業、研究機関と分野を超えた先端技術製品等のプロダクトから、建築、インテリア、グラフィックデザインまで多岐にわたるデザインを総合的に行う世界的に著名なデザイナー。世界で最も栄誉あるデザイン賞といわれるイタリア・ゴールデンコンパス賞、ドイツとシンガポールのレッドドット・ベストオブベスト賞、ヴェローナにおいてMastro d'Arte della Pietra賞など、数多くの受賞歴を持つ。

## 岸 輝雄 氏

Teruo KISHI, PhD



東京大学名誉教授、物質・材料研究機構名誉理事長、外務大臣科学技術顧問

物質・材料研究機構理事長、内閣府政策参与科学技術政策・イノベーション担当など歴任した、我が国を代表する研究者。外交において科学技術の重要性が増す分野で活動し、日本で開いたG7伊勢志摩サミットでは、環境や保健分野での科学技術活用の合意に貢献した。日本の研究者を海外に派遣し、科学技術・外交関係者らに説明するシンポジウムなどを在外公館で開くなどの情報発信にも力を入れている。

## 小泉 英明 氏

Hideaki KOIZUMI, PhD



日立製作所名誉フェロー、日本工学会アカデミー上級副会長・国際委員長

世界初の種々の計測原理を創出して実用装置化。「偏光ゼーマン原子吸光度計」は微量元素分析法として普及。2013年に分析機器・科学機器遺産に認定。電子から陽子のゼーマン効果に転じて「磁気共鳴断層撮影装置」(MRI)や、「光トポグラフィ装置」の開発に傾注。新生児から高齢者まで生きた人間の脳機能を安全に描画。「脳科学と教育」など「脳科学とX」という多くの新学術分野を提起し、道を拓いた研究者として世界に知られる。

## 李 遠哲 氏

Yuan Tseh LEE, PhD.



台湾中央研究院名誉院長、国立台湾大学主任上級特任教授

「物理化学界のモーツァルト」とも称される世界的に著名な科学者。シカゴ大学、カリフォルニア大学バークレー校に在任中にイオンビームと分子像の分析装置を開発して化学反応の素過程を動力学的に解明する斬新な研究を展開し、1986年にノーベル化学賞、ピーター・デバイ賞、米国国家科学賞を受賞。1994年～2006年台湾中央研究院院長。2008年に国際科学会議(現ISC)会長。持続可能な地球社会の実現をめざす国際協働研究プラットフォーム「Future Earth」の推進に尽力している。本学東京カレッジ特任教授(2019・20年度)。

## 宮坂 力 氏

Tsutomu MIYASAKA, PhD



桐蔭横浜大学特任教授

色素増感太陽電池およびペロブスカイト太陽電池の研究で世界的に著名な研究者。オックスフォード大学(イギリス)をはじめ、CNR(イタリア)、台湾、中国、オーストラリア、アメリカの大学や研究機関と共同研究を進める。2009年、ペロブスカイト構造を有するハロゲン化鉛を光活性層に用いたペロブスカイト太陽電池の開発を世界で最初に報告したJournal of the American Chemical Societyに掲載された論文は、現在までに7,400回以上引用されている。

## テイラー ジェイコブ 氏

Jacob M TAYLOR, PhD



米国標準技術研究所(NIST)研究員、メリーランド大学非常勤教授

メリーランド大学量子情報・計算科学融合センター(QuICS)の共同センター長、量子連携研究所(JQI)フェローも務める。量子物理および量子情報科学分野において世界的に知られた若手理論研究者。基礎から応用まで幅広い範囲の研究を行っている。2017年12月より米国ホワイトハウス科学技術政策局(OSTP)量子情報科学副主幹を務め、米国国家量子戦略策定と法案通過に貢献。2019年3月にOSTP内に新設の量子調整局暫定局長に就任。

## ヴンダーリヒ ヨルグ 氏

Joerg WUNDERLICH, PhD



レーゲンスブルク大学教授、前・日立ケンブリッジ研究所シニアリサーチャー

専門分野は、磁性体ナノ構造におけるスピン輸送、スピン生成、スピン検出の実験的及び理論的検証。ケンブリッジ大学をはじめInstitute of Physics, ASCR(チェコ)ほか、イギリスやフランス、アメリカの大学や研究機関との共同研究を進める。2次元電子ガスにおけるスピンホール効果の初めての実験検証は、2005年2月にPhysical Review Lettersに発表されて以降、1,400件以上引用されている。

## 謝 尚平 氏

Shang-Ping XIE, PhD



カリフォルニア大学スクリプス海洋研究所教授

気候力学分野にて顕著な成果を挙げた国際的に著名な研究者で、特に気候システムの形成・変動・変化における大気海洋相互作用の役割についての研究で数々の著名な業績を挙げている。これまで300余編の査読付学術論文(うち1割強はNature及びその姉妹誌)を出版したほか、IPCC第5次報告書の政策決定者向け要約・技術要約・14章の執筆を務めるなど、気候科学の進展に多大な功績を残し、米国気象学会ロスピーメダルを受賞して、同学会フェローに選ばれている。



### 柔軟で戦略的な パートナーシップを展開

英国・ケンブリッジ大学クレアホールは、31のカレッジからなるケンブリッジ大学のカレッジのひとつ。ケンブリッジ大学の中心部からやや西の静かな環境に位置する国際的な滞在型カレッジです。2006年の連携協定締結以降、合同シンポジウムの開催やVisiting Fellowshipプログラムでの研究者派遣、Visiting Studentプログラムでの大学院生派遣を実施し、相互に交流を深めています。

クレアホールとの連携は、これまでの学術交流協定の枠組みを超え、研究者や学生がコミュニティの一員となってクレアホールに滞在できるなど、柔軟で戦略的なパートナーシップを展開しています。



▲緑豊かで静かな環境のクレアホール



### ケンブリッジ大学クレアホールとの交流

#### 先端研の研究者を長期派遣する Visiting Fellowshipプログラム

先端研の教員が数ヶ月から1年の長期にわたってクレアホールに滞在し、ケンブリッジ大学での研究に従事するプログラム。国際色豊かなクレアホールの研究員との交流だけでなく、イギリスを拠点に学際的な研究活動を展開できることが魅力の1つにもなっている。2019年までに9人の教員がこのプログラムを利用した。

(写真: クレアホール関係者来日時、桜が満開の明治記念館にて。)

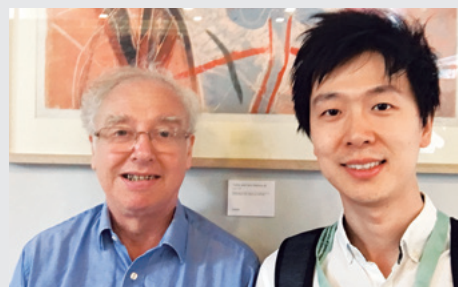
左から池内恵教授、中村尚教授、クレアホールMarie Jason開発部長、神崎亮平所長、クレアホールPresident Ibbetson教授、浜窪隆雄教授、海老澤幹夫経営戦略室副室長)



#### 先端学際工学専攻の学生が参加する Visiting Studentプログラム

2011年に始まったVisiting Studentプログラムは、大学院・先端学際工学専攻の学生がクレアホールに滞在して、ケンブリッジ大学サマープログラムを受講するプログラム。冬学期「先導人材育成プログラムII 先端科学技術英語」の単位を自動的に取得できる。2019年までに文系5人、理系9人の合計14人を派遣した。

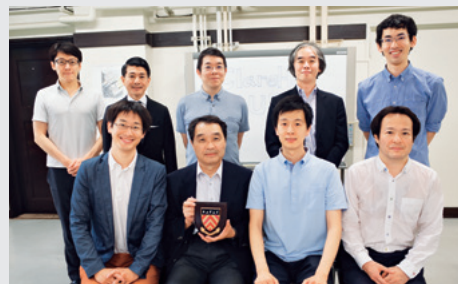
(写真: クレアホールPresident Ibbetson教授と2019年採択者の山下・セット研の張超さん)



#### クレアホール派遣者の同窓会組織 クレアホールクラブ

2018年7月に発足した、Visiting Fellowshipプログラム、Visiting Studentプログラムの経験者で構成するOB会。毎年1回、その年のVisiting Studentの壮行会を兼ねて集まり、クレアホールの情報交換などを行って親睦を深めている。

(写真: 2019年7月に開催したクレアホールクラブ。上左から、伴睦久さん、西山浩平特任講師、永江玄太講師、牧原出教授、照月大悟特任助教、下左から、佐藤信助教、浜窪隆雄東大名誉教授、張超さん、池内恵教授)





## 国際安全保障および科学とデザインに関する イスラエル×日本シンポジウムを生産技術研究所と共同主催



▲シンポジウム関係者



▲第1部ディスカッションの登壇者

2019年10月7日、東京大学とイスラエルのテルアビブ大学、ベツアルエル美術デザインアカデミーとの近年の国際学術交流の取り組みに焦点を当てた共同公開シンポジウムを、先端研および生研が共同で主催、駐日イスラエル大使館後援で開催しました。

第1部は先端研・池内恵教授(グローバルセキュリティ・宗教分野)が司会を務める「米イラン危機を読み解く：グローバルセキュリティへの脅威にイスラエルと日本がどう向き合うべきか」、第2部は生研による「デザインが先導する科学研究の価値創造」をテーマに基調講演とディスカッションが行われました。

## アジア・環太平洋における最先端の障害研究拠点を 目指し、ハワイ大学マノア校障害学センターと連携



▲ロバート・ストッテン名誉教授(右)と神崎亮平所長(左)

近藤武夫准教授と高橋桐子特任准教授(人間支援工学分野)を中心に、各機関の学際的な研究チーム、教員、大学院生及び支援コミュニティのメンバーを集め、アジア・環太平洋における障害や多様性に関する領域横断的な研究活動や国際学会の開催を目指したハワイ大学マノア校との連携を進めています。締結後は、相互に研究活動のためのサテライトオフィスを設立し継続的な交流を図りながら、インクルーシブな社会に向けて、人材育成、資金調達、政策提言を行うほか、環太平洋・アジア諸国を中心とした国際学会の開催を目指します。

## 「インクルーシブ・デザイン・ラボ プロジェクト」 キックオフシンポジウムを2020年1月9日・10日開催

誰ひとり取り残さないインクルーシブな教育研究環境を実現するため、来年度から本格スタートするインクルーシブ・デザイン・ラボプロジェクトは、障害を持つ当事者ならではの視点を研究コミュニティにもたらす方法論としての「当事者研究」と、障害のある当事者が中心となる自らにとって「アクセス可能な環境の構築」を2本柱としています。今回のキックオフシンポジウムでは、本プロジェクトに参加している国内外のゲストを招き、<すべての人のためのアカデミア>を実現する未来を考えます。

## 社会連携研究部門 再生可能燃料のグローバルネットワーク豪州視察



▲クイーンズランド州ブリスベンにて州政府・クイーンズランド工科大関係者との会談

2019年9月1日～7日に、本研究部門の参画企業代表者と大学側スタッフの総勢14名が、豪州のビクトリア、ニューサウスウェールズ、クイーンズランド、南オーストラリアの各州を訪問しました。豪州からCO<sub>2</sub>フリー燃料、再生燃料を日本に輸出する展望について、また豪州における石炭から再生エネルギーへのエネルギー転換の現状と展望について、メンバー自らの眼で豪州の可能性を実感するとともに、大臣などの政府要人や連携先の大学関係者と意見交換しました。豪州Chief ScientistのAlan Finkel博士との会談が実現するなど、豪州側の本研究部門に寄せる期待が大きいことを改めて実感できた視察となりました。

## 優秀な若手研究者の海外での研鑽・研究展開を支援 UTEC 若手海外自由展開・研鑽支援プログラム

先端研と生研は、2018年から、東京大学エッジキャピタルからの「UTEC指定寄附」を活用し、両部局に所属する学部4年生から助教までの若手研究者に、短期の海外研究をサポートするプログラムを実施しています。採択者の渡航先は、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、アジアと幅広く、訪問先も大学、研究機関、官公庁、国連会議、フィールドワークなど多岐にわたっています。2019年10月までに6回募集しました。

## 地域活性化やより良い地域づくりに向けて 神戸市と連携協定を締結

神戸市と先端研は、2017年4月から障害などにより通常の雇用システムでは就労機会を得られない人々でも誰もが自分に合った働き方で社会参加できる障害者就労支援について連携し、就労支援が対象者に応じてより効果的に充実するよう取り組んできました。その結果多様な働き方、雇い方のモデルを創出し、障害者社会参加の促進が可能になりました。

今回、2019年8月1日に締結された連携協定によって、今後は垂水駅前地区における多様な働き方の創出、再生可能エネルギーの活用に関する新たなプロジェクトの導入促進、神戸市のさまざまな都市課題に対応するため、地域における高齢者・障害者も含めた誰もが活躍するフィールドづくりなどに関する実践研究の検討などを展開します。

## 先端研OB・OG懇談会を開催

先端研では毎年、先端研から異動された教職員の方々をお招きして、OB・OG懇談会を開催しています。今年は10月9日に開催され、12名のOB・OGの方々及び31名の現役教職員が参加しました。神崎亮平所長から、開会の挨拶及び先端研の現況について説明され、岸輝雄元センター長のスピーチと乾杯により懇談会が始まり、終始和やかな雰囲気の中で現役教職員との旧交を温めました。OB・OGの方々からは、先端研設立当時の思い出や若手の人材育成の重要性、先端研の四つのモットーである「学際性」「国際性」「流動性」「公開性」を先頭に立って進め新しいことを続けていく先端研へのエールをいただくなど、有意義な会となりました。

(事務部専門員 佐藤 弘樹)

## 工学系研究科先端学際工学専攻(博士課程) 令和元年度秋季学位記授与式を挙行

2019年9月13日、大学院工学系研究科先端学際工学専攻の令和元年度秋季学位記授与式が挙行され、5名に学位記が授与されました。学位記授与式は英語で行われ、中村泰信常務委員と神崎亮平所長が式辞で「先端研のような学際的な環境で、どのように異分野とコラボレーションするのかを学んだ経験は、急速に変化する世界の中で適応するための力になる」とエールを送りました。9月20日には令和元年度秋季入学式が挙行され、11名が入学しました。



▲記者会見を行う神崎亮平所長(中央)、久元喜造神戸市長(左)、近藤武夫准教授(右)



▲OB・OGとの記念撮影



▲スピーチをする岸輝雄元センター長



▲学位記を授与する中村泰信常務委員



## くまモンせんたん研究員が 第24回VR学会で研究成果を発表

2019年9月11日、第24回バーチャルリアリティ学会大会で、くまモンせんたん研究員と檜山敦講師(身体情報学分野)が「バーチャルキャラクタを活用した地方創生の形」を発表しました。

くまモンは、2017年4月に先端研と包括連携を締結した熊本県のPRキャラクターで、檜山講師がフェローを務める「くまモン共有空間拡大ラボ(くまラボ)」での研究テーマ「VRくまモン」に取り組むため、2018年6月に先端研のせんたん研究員に任命されました。

くまモンがVR化されることで、これまで限定的だった活動の幅を広げることができます。今後VRくまモンは多くの企業が多様なアプリケーションを研究開発できるようオープンデータ化されるほか、活動拠点での常設化や新たな観光コンテンツへの展開を目指しています。



▲くまモンせんたん研究員登場時の会場。驚く人、カメラを構える人など



▲ポスター発表の会場で参加者を迎えるくまモンせんたん研究員  
©2019 熊本県くまモン

## 異才発掘プロジェクトROCKET サマープログラム「学びを取り戻せ！」を開催

2019年8月17日～20日、先端研にて異才発掘プロジェクトROCKETのサマープログラム「学びを取り戻せ！」が開催されました。このプログラムは「学びの本質を考える」として、受験を目指すも学ぶ目的が見つからない中学3年生から高校3年生までの10名を選抜。選ばれた子どもたちは、先端研のラボ見学、東大EMP(東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム)と連携したトップランナー講義、湯浅誠特任教授によるフィールドワーク、東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターの近藤薫氏による講義を受けました。

東大EMPは、将来の組織の幹部、特にトップになる可能性のある40代の優秀な人材を主たる対象にして、これまで国内外のどこの教育機関も提供していない高いレベルの、全人格的な総合能力を形成させる「唯一無二」の「場」を提供することを目的として2008年10月に開設されたプログラムです。今回は、ROCKETサマープログラムのために、山田興一東京大学総長室長顧問(化学システム工学)、久保文明東京大学教授(アメリカ政治外交史)、渡辺浩東京大学名誉教授(日本政治思想史)、難波成任東京大学名誉教授(植物病理学・植物医科学)を講師にお迎えしました。

また、近藤氏とは「芸術とカルチャーは何が違うか」「アートとは何か」などについて議論を交わし、最後に近藤氏らが演奏を披露したときには、子どもたちは演奏者に近づいたり外に出たりと、自由なスタイルで聴き入っていました。



▲近藤氏らの演奏に聴き入る子どもたち



▲参加した子どもたちと神崎亮平所長(左から5番目)との記念写真

人事情報

HR

採用・任命・転入等

| 発令日         | 氏名         | 職名            | 受入研究室         |
|-------------|------------|---------------|---------------|
| 2019年9月1日   | 原田 達也      | 教授            | 原田研究室         |
| 2019年9月1日   | 並木 重宏      | 特任准教授         | 神崎研究室         |
| 2019年9月1日   | 加納 真人      | 学術支援<br>専門職員  | 中邑研究室         |
| 2019年10月1日  | Raj Cosmic | 特任研究員         | 中村・宇佐見研究室     |
| 2019年10月1日  | Kim Hoheok | 特任研究員         | 井上研究室         |
| 2019年10月1日  | 大山 雄己      | 特任助教          | 寄付研究部門 先端物流科学 |
| 2019年10月1日  | 毛利 美都代     | 特任専門職員        | 中村・宇佐見研究室     |
| 2019年10月23日 | 李 遠哲       | 東大先端研<br>フェロー |               |

退職・転出

| 発令日        | 氏名     | 職名     | 転出先                                                  |
|------------|--------|--------|------------------------------------------------------|
| 2019年8月31日 | 中田 陽介  | 特任助教   | 大阪大学大学院基礎工学研究科<br>准教授                                |
| 2019年8月31日 | 塩田 裕介  | 特任研究員  | Max Planck Institute for<br>Chemical Ecology Postdoc |
| 2019年8月31日 | 保積 雅子  | 特任専門職員 |                                                      |
| 2019年9月30日 | 渡邊 由起子 | 特任専門職員 |                                                      |
| 2019年9月30日 | 西尾 純子  | 特任助教   | 東邦大学医学部免疫疾患病態<br>制御学講座 准教授                           |

活動報告

REPORT

【プレスリリース】 <https://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/pressrelease/>

2019年10月2日

栄養飢餓耐性に寄与するがん代謝物(オンコメタボライト)の発見  
大澤 毅 特任准教授(ニュートリオミクス・腫瘍学分野)  
児玉 龍彦 東京大学名誉教授

2019年9月26日

心不全患者の予後や治療応答性を高精度で予測する手法を開発(心筋DNA損傷  
の心不全における臨床的重要性の解明)  
油谷 浩幸 教授(ゲノムサイエンス分野)

【研究成果】

2019年9月11日

バーチャルキャラクタを活用した地方創生の形  
くまモン せんたん研究員・檜山 敦 講師(身体情報学分野)

2019年8月23日

Japan-EEC/EU Relations, 1970-2005: Re-Emergence as Strategic  
Partners in Trade and Environment  
JEIH Journal of European Integration History, Volume 25 (2019)  
牧原 出 教授(政治行政システム分野)

2019年6月5日

3次元量子ドット構造の形成実現によるInGaAsナノ円盤構造を世界で初めて  
観察 — バイオテンプレート極限加工により次世代量子ドットマイクロLEDの  
実用化に道 —  
杉山 正和 教授(エネルギーシステム分野)

【トピックス】

2019年10月7日

先端研・石川県・ISICOが実施する令和元年度共同研究創出支援事業の採択企業が  
決定

2019年9月27日

東大先端研と東京都教育委員会が協定書を締結

2019年9月11日

新生「東急プラザ渋谷」におけるサービスデザインの創出にむけた産学連携での取  
り組み  
地域共創リビングラボ

【テレビ・ラジオ出演】

2019年10月15日

【NHKラジオ第一】三宅民夫のマイあさ！  
「台風19号 なぜ大きな被害をもたらしたのか」  
甚大な水害をもたらした台風の特徴や地球温暖化の影響などについて解説  
中村 尚 教授(気候変動科学分野)

2019年9月29日

【テレビ朝日】サンデーLIVE！！  
地球温暖化の影響によって今後日本の天候・気候に起こり得る変化や必要な対策  
について解説  
中村 尚 教授(気候変動科学分野)

2019年9月28日

【NHK総合】おはよう日本  
"スーパー高齢者" に学ぶ元気の秘けつ  
檜山 敦 講師(身体情報学分野)

2019年9月22日

【BS朝日】日曜スクープ  
徹底解説 ニュースの焦点: サウジ石油施設攻撃で緊迫！！イラン情勢  
トランプ大統領「新たな制裁」 どうする日本  
小泉 悠 特任助教(グローバルセキュリティ・宗教分野)

2019年9月3日

【BS日テレ】深層ニュース  
「宇宙戦争」現実！？ 米中露が狙う宇宙覇権 日本やっと部隊発足へ  
小泉 悠 特任助教(グローバルセキュリティ・宗教分野)



【新聞掲載】

2019年10月23日

【読売新聞】  
自民党研究 政党を問う  
大衆迎合抑止の「岩盤」 一体化問われる「中道」  
牧原 出 教授(政治行政システム分野)

2019年10月23日

【東京新聞】  
「即位礼正殿の儀」参列者が思い 御厨氏「見事なお言葉」  
御厨 貴 客員教授(情報文化社会分野)

2019年10月15日

【日本経済新聞】  
視覚障害者の転落防げ 「思いやり」の声かけ 重要  
福島 智 教授(バリアフリー分野)

2019年10月13日

【朝日新聞】  
AI兵器 命の責任誰が負う 人間の制御超える懸念  
小泉 悠 特任助教(グローバルセキュリティ・宗教分野)

2019年10月1日

【北国新聞】  
東大と共同研究採択2社に通知書 県庁で交付式  
石川県との自治体連携

2019年9月27日

【日本経済新聞】交遊抄  
痛くない親知らず 星野 次彦  
玉井 克哉 教授(知的財産法分野)

2019年9月25日

【毎日新聞】くらしの明日  
私の社会保障論 私自身の当事者研究  
熊谷 晋一郎 准教授(当事者研究分野)

2019年9月23日

【朝日新聞】  
障害ある子の支援 VRどう使う 東大などプログラム開催  
DO-IT Japan

2019年9月20日

【毎日新聞】論点  
バリアフリーの課題 「降りた人」がいる意味  
福島 智 教授(バリアフリー分野)

2019年9月19日

【電波新聞】  
新技術 3次元量子ドット構造の形成実現によるInGaAsナノ円盤構造を世界で初観測  
杉山 正和 教授(エネルギーシステム分野)

2019年9月15日

【朝日新聞】  
受験生、机を離れて見えた世界は 中高生ら「答えのない学び」体験  
異才発掘プロジェクト ROCKET サマープログラム

2019年9月12日

【読売新聞】  
初入閣「真価問われる」「限られた人材フル活用」  
牧原 出 教授(政治行政システム分野)

2019年9月11日

【読売新聞】  
「ポスト安倍」競わせる布陣 第4次再改造内閣きょう発足  
かつては閣僚党三役…「首相の条件とは」  
御厨 貴 客員教授(情報文化社会分野)

2019年9月6日

【日経産業新聞】Next Tech 2030  
水素貯蔵材、低コストで製造 海外再エネ活用 安全に運搬  
杉山 正和 教授(エネルギーシステム分野)

2019年9月5日

【東京新聞】  
爆発の謎 見解交錯 ロシア軍施設事故  
小泉 悠 特任助教(グローバルセキュリティ・宗教分野)

【雑誌掲載】

2019年10月12日

【週刊東洋経済】2019年10月19日号  
フォーカス政治：消費増税後こそ問われる将来構想を国民に語る政治  
牧原 出 教授(政治行政システム分野)

2019年9月9日

【週刊東洋経済】2019年9月14日号  
フォーカス政治：冷静さと専門的見地を欠く憲法改正論議の危うい現状  
牧原 出 教授(政治行政システム分野)

新 刊 B o o k

『この国の不寛容の果てに：相模原事件と私たちの時代』

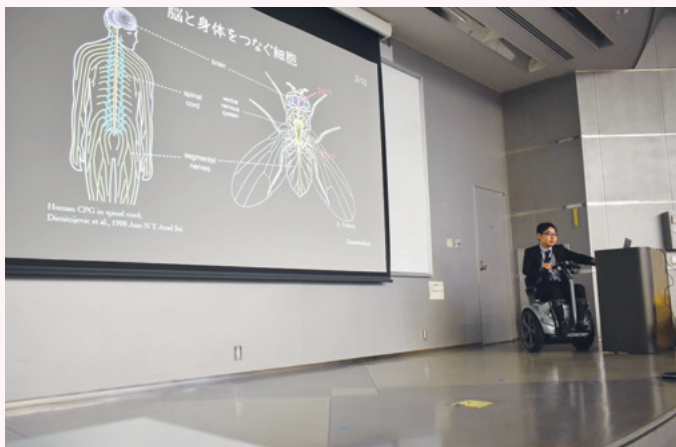
熊谷 晋一郎 ほか(著)／大月書店／2019.9.16

『当事者研究をはじめよう (臨床心理学 増刊第11号)』

熊谷 晋一郎(責任編集)、綾屋 紗月 ほか(著)／金剛出版／2019.8.13

先端研ウェブサイトで最新の活動状況をご覧ください

## 受賞者の声



### 並木 重宏 特任准教授が 第90回日本動物学会で奨励賞を受賞

並木重宏特任准教授(インクルーシブデザインラボ)が、日本動物学会の第90回年次大会において奨励賞を受賞し、2019年9月13日に開催された動物学会総会で受賞者講演を行いました。日本動物学会は動物科学研究の発展と普及を目的とする学術団体で、会員の専門分野は、系統学、細胞生物学、内分泌学、遺伝学、生態学、行動学など動物を対象とする生物科学の多くを網羅しています。動物学会奨励賞は、活発な研究活動を行い、将来の進歩、発展を強く期待される若手研究者に贈られます。

#### 受賞研究:昆虫の行動司令を担う神経回路の分析

離着陸や旋回など、昆虫の飛行を制御する神経回路を特定しました。また行動の神経基盤について、種間で保存された構造の存在を明らかにし、多様な虫の行動を統一的に説明する仮説を提案しました。

#### 【受賞コメント】

このたびの受賞は、これまでご指導下さいました皆さまのおかげです。深く感謝申し上げます。



▲受賞式の様子(右:並木重宏特任准教授)



### 柳井 秀元 特任准教授が 日本インターフェロン・サイトカイン学会 第15回奨励賞を受賞

柳井秀元特任准教授(社会連携研究部門 炎症疾患制御分野)が、2019年度第84回日本インターフェロン・サイトカイン学会(JSICR)にて第15回奨励賞を受賞しました。

JSICRは、細胞から放出されて特定の細胞に働きかけ、免疫・炎症反応などの生体防御機構に重要な役割を果たすタンパク質「サイトカイン」を中心とした関連領域の基礎研究から応用臨床研究に至るまで、幅広く医学・科学の発展に貢献することを目的としています。柳井秀元特任准教授は2019年8月3日に開催されたJSICR総会での奨励賞表彰式に出席し、受賞者講演を行いました。

#### 受賞研究:死細胞由来分子による免疫応答調節機構の解析

本研究では、死細胞放出分子中に重篤な炎症を抑制する分子が存在することを発見し、これがないと過剰な炎症が起きることやがんが悪化してしまうことを示しました。

#### 【受賞コメント】

このような過分な賞をいただき大変光栄に存じます。受賞講演では、現在取り組んでいる研究内容、特に細胞死と免疫応答制御との関連について紹介させていただきました。これまでご指導・ご助言下さいました、先生方、研究者の皆様に、深く感謝申し上げます。



▲受賞した柳井秀元特任准教授(中央)





▲受賞した小原聡特任准教授(右)

## 小原 聡 特任准教授が 第28回生物学技術賞を受賞

2019年9月16日、小原聡特任准教授(社会連携研究部門 再生可能燃料のグローバルネットワーク)が2019年度第28回生物学技術賞を受賞しました。生物学技術賞は、生物学に関連する工業の技術開発に顕著に貢献した者に日本生物工学会より与えられる賞です。

### 受賞研究:選択的発酵酵母を利用した砂糖・バイオエタノール逆転生産プロセスの開発

サトウキビ搾汁から砂糖を製造するプロセスにおいて、砂糖回収後にエタノール製造を行う従来法を逆転させ、はじめにエタノール製造を行い、続いて砂糖の回収を行う画期的な製造プロセス「逆転生産プロセス」を世界で初めて開発し、砂糖の単位面積あたり生産量を1.5~2倍に向上させました。

### 【受賞コメント】

再生可能燃料の普及に向けて、太陽光や水素などのエネルギーと組み合わせて、世界に展開していきたいと思っています。



▲花大洵さん(前列左)、医学系研究科長 齊藤延人教授(前列右)

## 花 大洵さんに 東京消防庁より感謝状が贈呈

油谷研究室(ゲノムサイエンス分野)の花大洵さん(大学院医学系研究科 脳神経医学専攻D4)が鉄道事故において東京消防庁の救急活動に協力し、2019年8月15日に東京消防庁より救急業務協力者として感謝状が贈呈されました。

脳神経外科医師でもある花さんは7月下旬に駅で発生した鉄道事故の現場に偶然遭遇。即座に傷病者に対応し、遅れていた救急隊到着までの間に先着したハイパーレスキュー隊・消防隊員に医療的助言を行いながら救命処置を行い、救急車内ではDMATの医師と共同で高度救命処置を実施しました。

### 【花さんのコメント】

最重度の外傷事案にたまたま遭遇し、現場でできる救命処置を必死で行いました。臨床医はどこにいても臨床医であり、これからも、もし何かあれば可能な限り協力したいと思っています。

## 新任教職員紹介

## NEW FACULTY MEMBERS

私の専門は画像認識、機械学習、知能ロボットです。また、最近では多種多様なセンサデータ解析、自然言語処理との融合研究も行っております。我々の研究は、様々な領域におけるデータと組み合わせることによって、はじめて科学的もしくは社会的価値を生み出します。同時に、データの取り扱い、生成された結果において、法的もしくは倫理的問題も考えなければなりません。学際的な研究所である先端研の先生方と協力して、新たな発見やポジティブな社会変革につながるような貢献ができればうれしく思います。

2019年9月1日付

マシンインテリジェンス分野  
原田 達也 教授



先端研のインクルーシブデザインラボの事業を担当させていただきます。科学技術の関連分野において、障害をもつ学生や研究者の活動を支援する環境づくりに取り組み、このためにステークホルダーが協力する体制をつくりたいと考えています。事業では、アクセシビリティを備えた実験室の整備、というテーマにも取り組みます。腕より始めよということで、私自身もこの実験室を使い、これまでに取り組んできた基礎科学の研究活動を行って参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2019年9月1日付

インクルーシブデザインラボ  
並木 重宏 特任准教授



# Love, Lab, Life!

## 研究室によるオリジナル研究室 & 研究生活紹介

### 生命反応化学分野 岡本研究室

PI 1名、准教授1名、助教2名  
研究員3名、博士学生5名  
修士学生11名



### 我がラボを語る、この1枚!



教員と学生との距離が近く、いつでも親身に相談にのってもらっています。私たちにとって教員とのディスカッションは非常に重要な時間です。



工学部化学生命工学科4年  
中塚 悠

### こんな研究をしています

人類にとって最大の謎。それはもしかしたら私たち自身かもしれません。

私たちの体は細胞の集まり、さらに言うとう原子の集まりです。当たり前のことですが原子一つ一つに意思はありません。それぞれの原子は化学の法則に基づいて分子を形成し、化学の法則に基づいて反応しているにすぎません。しかし、それらが集まって高度な機能を持った細胞、そして私たちの体ができています。

私たちの研究室では原子や分子がどのように生命現象に関わっているか解き明かし、創薬などの応用につながる新たな技術を提案しています。

### 生命を“視る”

特定の遺伝子配列を認識し蛍光を発するプローブなど細胞を解析する新たな手法を開発しています。

### 生命を“操る”

一細胞レベルで細胞を選別し、吸着、分離させる手法を開発しています。

### 生命を“創る”

核酸やタンパク質などの生体分子を新たにデザインし、新機能を持った分子を合成しています。



# 岡本研の Love, Lab, Life!



秩父LAB旅行2019



慎重に試薬を投入する緊張の一瞬……ここでミスするとやり直しに!?



花火で表すLABへの愛(インスタ映え!)

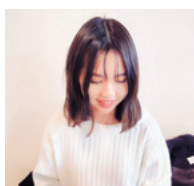


3号館6階を出迎える巨大DNA



複雑な機器も自由自在に研究初心者にも優しい研究室です

## ちょっと一言



工学系研究科  
化学生命工学専攻  
修士2年 肖 可敬

I joined Okamoto lab 2 years ago. Okamoto lab is a diversity lab. There are many foreign students including me. We would have lunch together, so it's easy to communicate with others, also worldwide presents could be tasted here. Also, though we are mainly focus on the researches of nucleosides and peptides, everyone has their own unique topic actually, for example I'm focus on the research of origin of life here. So you can learn a lot from other people. It's quite free and interesting to conduct the experiments in Okamoto lab, and I have made a lot of friends here. Thanks to Okamoto-sensei and his team for enabling me to join this lab and thanks for all the teachers and students' kindly help.

## MESSAGE FROM LAB

### 研究室のアピールポイント

生命を理解するためには生物分野と化学分野の融合が不可欠です。岡本研究室ではどちらにも精通した幅広い研究が可能です。

### 未来のメンバーに向けて

岡本研究室の卒業生の多くが「自由にやりたい研究ができた」と語ります。指導教員からの手厚いサポートはもちろんです、自主的にやりたいと思った研究ができるのも魅力の一つです。  
みなさんのアイデアをこの研究室で形にしてみませんか？

# Voice from Co-Creation

先端研・地域連携担当者イチオシのローカル情報



フラシティいわき  
で検索！

半世紀前、常磐ハワイアンセンター(現:スパリゾートハワイアンズ)とともに誕生した、いわきの「フラ文化」に着目したシティセール「フラシティいわき」を展開中です。市の魅力を最大限に生かして、「選ばれるまち」を目指します！



いわき市では全国から高校生が集まる「フラガールズ甲子園」が毎年開催されています。

## 福島県いわき市

2018年、東北では初となる先端研との連携協定を締結。

## 地元には無い先端の発想との融合で地域の未来を切り拓く！

2018年4月より福島県いわき市から出向しています。

明るく前向きないわき市の風土と先端知を融合させながら、先端研といわき市がWIN×WINとなるような新たなチャレンジをどんどん生み出していきたいと思っています。

経営戦略企画室 折笠 雄司



思いっきりローカル自慢！

## ワタシの、いいもの、うまいもの

1年中常夏！映画「フラガール」を体感！  
「スパリゾートハワイアンズ」



6個の温泉テーマパークと4つのホテルからなる、全天候型レジャー施設。広大なプールと日本一のボディスライダーを満喫したら、ポリネシアンショーで映画の世界を生で感じて…。



## ハワイを日常に… 「ハワイアンカフェ アイランドボウル」

フラガールを8年間務めたオーナーが、ハワイ文化を広めようとカフェをオープン。ハワイアンサイズで提供されるロコモコやパンケーキは、驚きとともに大人気です！

## ふるさと納税の返礼品にも！ 「フラシティいわき」 オリジナルグッズ

いわき市の認知度UPのため、地元企業とともにオリジナルグッズの開発を行っています。フラやハワイが感じられる魅力的なお品物を全国の皆さまへお届けします！



## ただいま進行中!>>

### 風力の中心地へ 「CENTER for Wind Energy」

C:Co-creation E:Emergence  
N:Networking  
TE:Technology Enhance  
and R:Regional Development

原子力災害で傷ついた産業を復興させるべく、風力発電による新産業の創出に向け、飯田研究室と連携して、地元産業界の育成、将来世代を担う若手技術者の育成に取り組んでいます。他にも、杉山研究室と水素エネルギー関係、西成研究室と観光施設の混雑解消などで連携できる方策を模索しており、複数の先端研の研究室といわき市との関わりが生まれてきています。

多くの課題を持つという市の特徴を強味にして、新たなチャレンジに繋がっていききたいと思います。



福島高専風力インターンシップ



東京大学教員の著作を著者自らが紹介するウェブサイト『UTokyo BiblioPlaza』で、福島智教授(バリアフリー分野)による書籍紹介文が掲載されました。今回、書籍紹介の特別編として『UTokyo BiblioPlaza』より転載してご紹介します。

## ぼくの命は言葉とともにある

9歳で失明 18歳で聴力も失った  
ぼくが東大教授となり、考えてきたこと



私(福島)は盲ろう者です。目と耳の両方に障害のある人を「盲ろう者」(deafblind person)と呼びます。歴史上で最も有名な盲ろう者はおそらく、米国のヘレン・ケラーさんでしょう。

ヘレン・ケラーさんは、二十世紀に世界的に活躍した社会福祉事業家で、日本にも三度来られています。映画や演劇で、あるいは伝記などの書籍でご覧になった人も多いと思います。

けれども、それらを見たり読んだりしたとき、自分がヘレン・ケラーと同じような人生を送ることになるかもしれないなどとは、おそらくどなたも想像なさらなかったと思います。私もそうでした。小学一年生の時に子ども向けのヘレン・ケラーの伝記を読んで、私は驚きました。世の中にはいろいろな人がいるのだなあと。しかし、自分が九歳で失明し、十八歳で聴力も失うことになり、ヘレン・ケラーさんと同じような状態で人生を送ることになるなどとは夢にも思いませんでした。

本書ではこうした私の実体験をもとに、私が子どもの頃から考えてきたこと、感じてきたことを、できるかぎり平易に記しました。実は、本書はそれ以前に刊行した拙著を、一般向けに改めて書き直したものでもあります。なお、以前の拙著は『盲ろう者として生きて』(明石書店、2011年)という本です。これは私の博士論文をベースに、かなりの加筆を行った大部の学術書で、2020年には英語版も刊行される予定です。本書はこの学術書のエッセンスをできるかぎり分かりやすく伝えるように、具体的なエピソードなども交えて綴りました。

では、その「エッセンス」、つまり私が自らの体験を分析することで見出した認識とは何でしょうか。

その一つは、「人は衣食住が満たされるだけでは十分に生きているとはいえず、他者とのコミュニケーションがなければ、いわば、『魂の飢餓状態』を経験する」ということです。

もう一つは、コミュニケーションにおいて重要なものは「感覚・言語的な文脈」だという認識です。「言語的な文脈」、つまり、文章や会話において、その前や後の言葉との関係性が大切だということは、多くの人が経験することでしょう。しかし、私が盲ろう者として生きていく過程で経験した、さまざまなコミュニケーション上の困難を分析した時、「文脈は、言葉にだけ存在するのではなく、『感覚』、つまり『視覚や聴覚を含めた人間の五感』にも文脈がある」という結論に達したということです。

本書ではこうした研究成果を踏まえ、またその他のいくつかの問題について、読者と共に考えるようなスタイルで記しています。最後に、本書中に記した私の詩を御紹介します。

### 指先の宇宙

ぼくが光と音を失ったとき、/ そこには言葉がなかった。/ そして世界がなかった。// ぼくは闇と静寂の中でただ一人、/ 言葉をなくして座っていた。/ ぼくの指にきみの指がふれたとき、/ そこに言葉が生まれた。// 言葉は光を放ちメロディを呼び戻した。/ ぼくが指先を通してきみとコミュニケーションするとき、/ そこに新たな宇宙が生まれ、/ ぼくは再び世界を発見した。// コミュニケーションはぼくの命。/ ぼくの命はいつも言葉とともにある。/ 指先の宇宙で紡ぎ出された言葉とともに。

紹介文執筆者:バリアフリー分野教授 福島 智

『UTokyo BiblioPlaza』より転載(2019年8月22日公開)

UTokyo BiblioPlaza  
Books written by UTokyo professors



# 異分野のカルチャーショックが、研究の筋トレになる

つじた まさき

辻田 匡葵 さん 熊谷研究室(当事者研究分野) 特任研究員

愛媛県出身。千葉大学文学部行動科学科卒業。千葉大学大学院人文社会科学研究所修士課程修了、2017年千葉大学大学院融合科学研究科博士課程修了。博士(学術)。2017年4月より現職。所属する熊谷研究室には障害の当事者が初期から研究に携わる「ユーザーリサーチャー」が4人在籍しており、当事者とアカデミックな領域の橋渡し役も担っている。



趣味の料理が高じて(?)最近はそのへの興味が高まり、その関連の資格取得も考えている辻田特任研究員。所内でも、とあるきのかを発見したとか、しないとか。

「心理学の研究というとカウンセリングをしていると思われるので、親戚には脳科学のようなものだと言っています。fMRIは使いませんが(笑)」

専門は知覚心理学。「光って音が出るものがあると、人は光と音が同時に起きていると認識できますが、実際には光と音の速度は異なるため、情報は別々に脳内に到達しています。人が見たり聞いたりしたものを脳がどのように処理しているのかを、fMRIや脳波計を使って脳を測るのではなく、刺激に対する反応や行動から測定する研究です」。

博士の学位を取得後、当事者研究を行う熊谷研究室へ。自閉スペクトラム症の人と健常者の知覚の違いに着目していた熊谷晋一郎准教授が、実験を構築できる人を探していたからだ。自閉スペクトラム症の当事者はコミュニケーション障害があるとされているが、それは過敏すぎる知覚に問題がある結果として起きている可能性がある。「心理学の

専門は自分しかいないので、一人で実験環境を構築するのが大変でした」。環境を整えながら、一般の人が持つ自閉スペクトラム症のイメージや差別・偏見の調査も行った。「研究室には当事者と多様な分野の研究者がいて刺激的です。自分の専門分野で深い議論をしたくなったときには、学外の研究会に参加します。どちらかではなく、どちらもできる環境がベストです」。

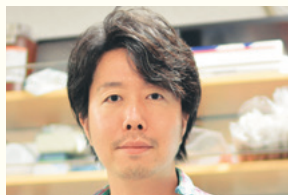
いきなり異分野や当事者が混在する場に入り、困惑しなかったのだろうか。「カルチャーショックでした。例えば、心理学で『男性より女性のほうが感情を読む力が強い』という場合、心理学者にとっては個々が違うのは前提として、平均を見て男女差があると断言してしまいます。ところが当事者研究の議論では多様性を重要視していて、個々のデータを見たいと言われます。安易に自分の専門分野の前提で議論を進めてはいけません。ただ、いろいろ大変なことはあっても無理だとは思わない

んですよ。筋トレと同じで、負荷の分だけ筋力がつきますから」。

バリアフリー領域では実践が重要と言われることが少なくない。「熊谷先生は、論文を書くことも当事者につながると言います。障害を持つ当事者は自分の身体を知りたい欲求がある。論文を出すことは、サポートとは別の面で当事者のためになると」。論文はあくまでも手段。研究成果を知ってもらうことに価値がある。

「研究室では、当事者が必要性を感じる実験を構築したり、ユーザーリサーチャーと呼ばれる当事者が研究を展開する際の学術的助言を行っています。障害の領域で心理学を用いることは、障害者と健常者の比較から人間一般の知覚の処理を調べることに繋がります。縦横無尽なコラボレーションのおかげで、自分の研究が深まるのを感じています」。

## 編集後記



広報委員 谷内江 望 准教授(合成生物学分野)

今号のRCAST NEWSはお楽しみ頂けましたでしょうか?今月も先端研は様々なニュースがありました。先月と同じように平和でした。皆さんの中にはトップジャーナルに論文が採択されたり、仲間や同僚と大喧嘩したりそれなりのニュースをお持ちの方もいるかもしれませんが、それでも所長が秘密裏に進めていたプロジェクトが結果として13号館がいきなり口が変形して火星に飛んでいってしまうというような衝撃はありませんでした。

た。明治維新を思想的に牽引し、安政6年に29歳で獄死した吉田松陰が山田顕義(当時14歳)に贈ったとされる有名な言葉があります(一部抜粋)。立志尚特異(志を立てるためには人と異なることを恐れてはならない)百年一瞬耳(百年の時は一瞬にすぎない)君子勿素餐(君たちはどうかいたずらに時を過ごすことなかれ)。近年世界はより大きく動いています。もっと先端研から次の時代をみがいて切り拓くようなニュースを。

## 東京大学先端科学技術研究センターについて

2017年に発足30周年を迎えた東京大学先端科学技術研究センター(略称:先端研)は、「科学と技術とアートのハーモニーでインクルーシブな社会を形にする」ことを使命とする研究所です。最大の特徴は研究者や研究分野の多様性にあり、理工系の先端研究から社会科学やバリアフリーという未来の社会システムに関わる研究まで、基礎から応用に至る多様な研究を積極的に推進しています。

先端研ニュース 2019 Vol.4 通巻108号 発行日:2019年11月12日

ISSN 1880-540X

© 東京大学先端科学技術研究センター

発行所: 東京大学先端科学技術研究センター 〒153-8904 東京都目黒区駒場 4-6-1 <https://www.rcast.u-tokyo.ac.jp>

転載希望のお問い合わせ [press@rcast.u-tokyo.ac.jp](mailto:press@rcast.u-tokyo.ac.jp)

編集: 広報委員会[中村尚(委員長)、岡田至崇、高橋哲、池内恵、ティクシエ三田アニエス、近藤武夫、谷内江望、セツ ジョーン、村山育子、山田東子]



この冊子は植物インキを使用しています。

表紙: 英国ケンブリッジ大学クレアホール ©Tobias Baldauf